



2020年度画像診断レポート委員会 成果報告



一般社団法人 日本画像医療システム工業会 (JIRA)
医用画像システム部会 画像診断レポート委員会 委員長 野川 彰一

2021/02/19 医用画像システム部会 成果報告会

はじめに

画像診断レポート委員会 2020年度の事業計画

- 異なるベンダ間でのレポートデータの互換性及びシステム接続を確保するための方式についての検討を継続。必要に応じて、これまでに作成した、[画像診断レポート交換手順ガイドライン](#)、データ交換フォーマット、CDA入出力サンプルプログラム等を改訂する。
- ガイドライン類の[更なる普及に向け](#)、[利用範囲の拡大](#)を検討する。患者へのデータ提供、患者紹介、地域連携、遠隔読影等への応用を検討する。遠隔読影は、医療IT専門WGと連携する。本ガイドラインに関連する国際標準や他団体の動きについての調査を行う。
- 放射線科以外のレポートに関する標準化動向、他団体の動き、海外標準化動向を調査する。

報告内容

- 当委員会 活動結果について
 - 1) 標準化活動報告
 - 2) データ交換ガイドライン 利用範囲の検討
 - 3) 入出力サンプルプログラム 機能追加
 - 4) その他

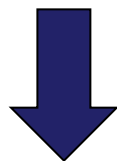
- 来年度以降の活動計画について

標準化活動報告

- 当委員会 今年度の活動結果について
- 標準化活動報告

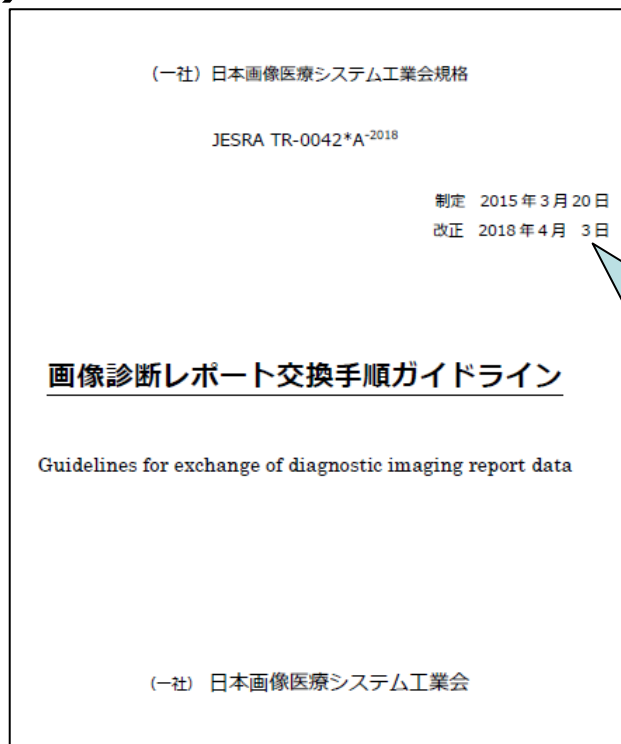
1) 現状の確認、問題点

- ・国内各社の読影レポートシステムにはデータの互換性がない。
- ・DICOM/IHEのような標準化ができていない。



- ・他システムへのデータ移行／転送が面倒
- ・上記作業に多額のコスト／労力を要している。
(ユーザ／ベンダ双方の負担)

2) 画像診断レポート交換手順ガイドラインの作成



HL7 Clinical Document Architecture Release 2 (以下CDA R2)に基づき、XMLによる電子的標準様式を定義しました。

同時に、作成したXMLファイルのチェック用ツールの公開を実施しました。
また、画像診断レポート交換手順ガイドラインの利用促進のため、CDA出力・取込サンプルプログラムの公開を行いました。

2018.04 改訂実施

改訂内容：

システム部会 画像診断レポート委員会参加ベンダー間にて、画像診断レポートの出力。出力したレポートデータの交換を行い、各ベンダー間でのデータ受け渡し確認を実施した際に、本ガイドライン中で指摘のあった、用語の統一、誤記等の修正を実施した。

画像診断レポート交換手順ガイドライン概要

（目次）

・適用範囲

用途、目的 など

・用語の定義

本ガイドラインで用いる用語の定義

・概要

本文書の位置づけ

基本方針

・画像診断レポートファイル仕様

全体構成の概要

ヘッダ部

ボディ部

エン트리部

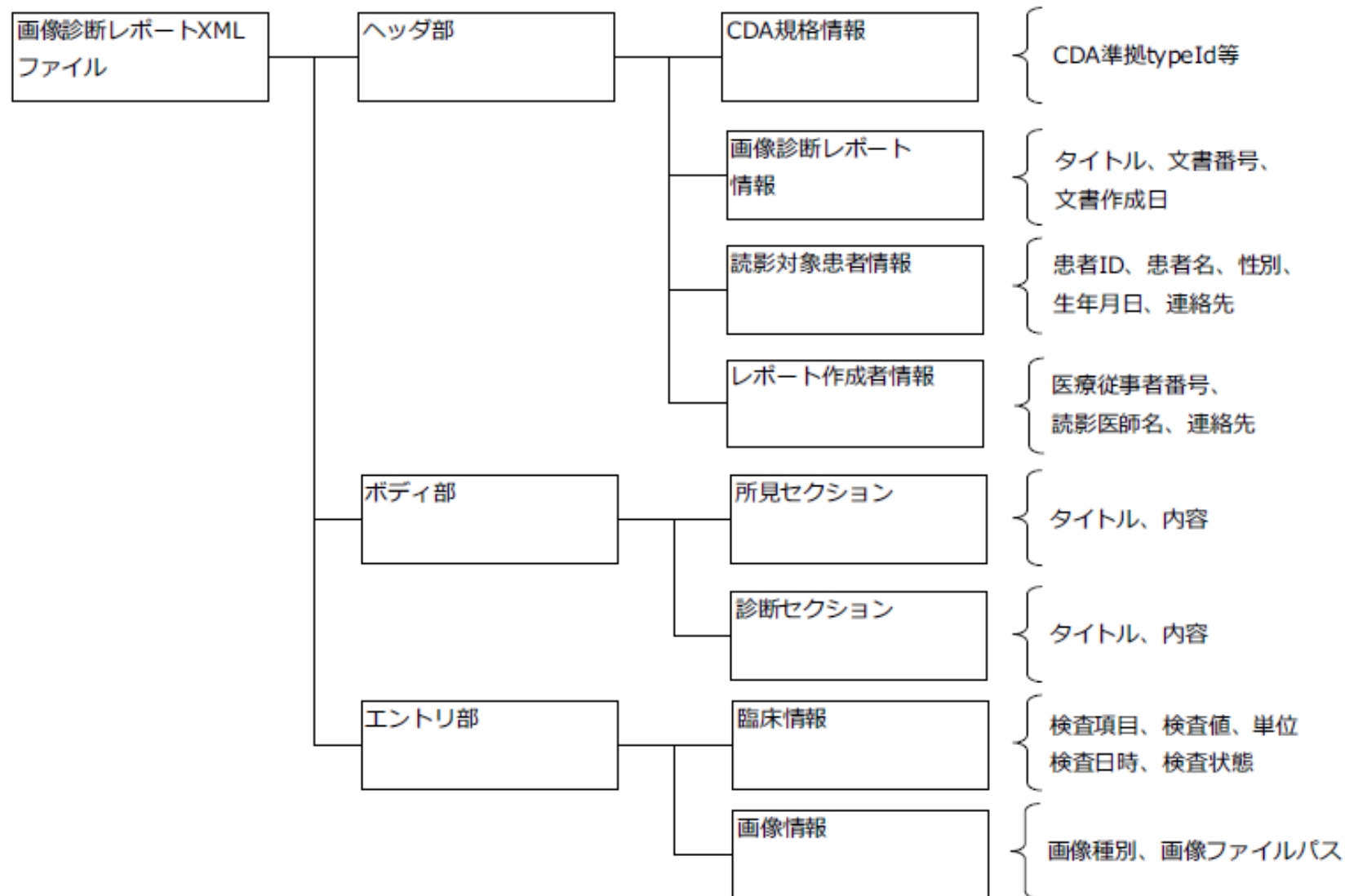
・ボキャブラリ仕様

・OID表

・サンプル

当委員会 今年度の活動結果について（標準化活動報告）

画像診断レポートファイル仕様



当委員会 今年度の活動結果について（標準化活動報告）

画像診断レポートファイル仕様

4.2.4 患者役割情報

患者役割情報を管理するpatientRoleには、患者ID、患者所在に加え、患者個人情報を意味するPatientと患者所属情報を意味するproviderOrganizationが含まれる。

No	要素名 / 属性	Index		
		型	多重度	説明
9.3	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole	—	1..1	患者役割情報
9.3.1	@classCode	CNE	1..1	固定「PAT」
9.3.2	id	II	1..*	患者ID
9.3.2.1	@root	UID	1..1	患者IDの名前空間を識別するOID 6章「OIDについての考え方」を参照。
9.3.2.2	@extension	ST	1..1	患者ID
9.3.2.3	@assigningAuthorityName	ST	0..1	通常はその患者の所属病院(9.3.6.3)のため省略可。
9.3.2.4	@displayable	BL	0..1	患者IDの記述が人に読める形式の時は true 16進などの機械処理用なら false。
9.3.3	telecom	TEL	0..1	患者電話番号
9.3.3.1	@value	ST	1..1	電話番号。「tel:」で始まる文字列で数字だけとし、ハイフンやカッコなど区切り文字を含まない。例：“tel:0312345678”
9.3.3.2	@use	CS	1..1	HP:自宅、WP:仕事先
9.3.4	addr	AD	0..1	患者住所
9.3.4.1	@use	CS	1..1	HP:自宅、WP:仕事先
9.3.4.2	addr/postalCode	ST	0..1	郵便番号
9.3.4.3	addr/country	ST	0..1	国
9.3.4.4	addr/state	ST	0..1	都道府県
9.3.4.5	addr/city	ST	0..1	市
9.3.4.6	addr/streetAddressLine	ST	0..1	町以下詳細
9.3.5	patient	—	1..1	4.2.5 患者個人情報参照
9.3.6	providerOrganization	—	0..1	4.2.6 患者所属組織情報参照

サンプル

7. サンプル

7.1 サンプルデータ

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="Report.xsl"?>
<ClinicalDocument xmlns="urn:hl7-org:v3" xmlns:voc="urn:hl7-org:v3/voc"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="urn:hl7-org:v3 CDA.xsd">
  <typeId root="2.16.840.1.113883.1.3" extension="POCD_HD000040" />
  <templateId root="1.2.392.200036.8160.1000.1" />
  <id root="1.2.392.200036.8160.9999.101.3" extension="123456789"/>
  <code code="18748-4" codeSystem="2.16.840.1.113883.6.1"/>
  <effectiveTime value="20060901"/>
  <confidentialityCode code="N" codeSystem="2.16.840.1.113883.5.25"/>
  <versionNumber value="1"/>
  <recordTarget typeCode="RCT" contextControlCode="OP">
    <patientRole classCode="PAT" >
      <id root="1.2.392.200036.8160.9999.101.1" extension="00001234" assigningAuthorityName="AAN"
displayable="true"/>
      <patient classCode="PSN">
        <name use="ABC">
          <family>TESUTO</family>
          <given>KANJA</given>
        </name>
        <name use="IDE">
          <family>テスト</family>
          <given>患者</given>
        </name>
      </patientRole>
    </recordTarget>
  </ClinicalDocument>
```

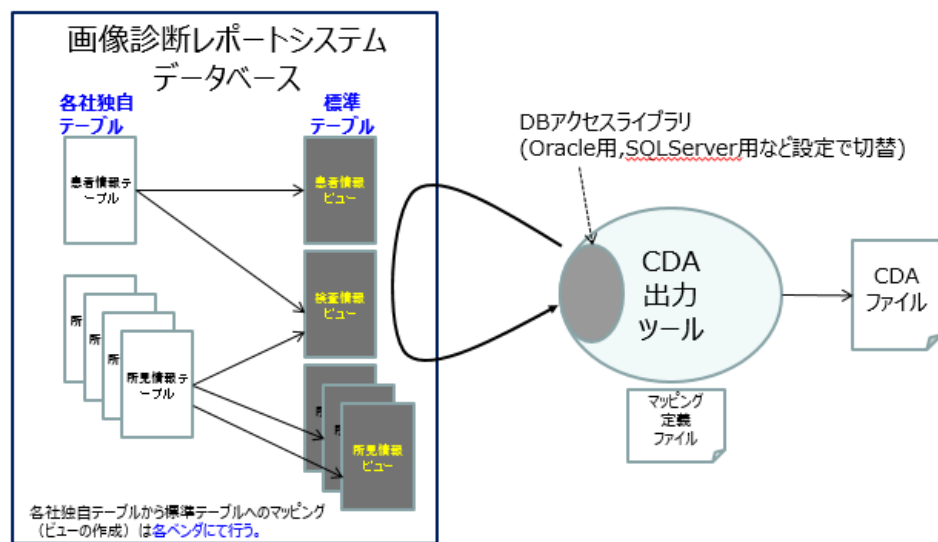
3) CDA出力 サンプルプログラム

各ベンダのデータベース構造の公開は不要とし、一般的なデータベースエンジンを使用した、サンプルプログラムを作成。（2015.04 開始）

（レポート付属のキー画像の取り出しも可能）

委員会参加ベンダにて動作確認を実施。CDAファイルが出力できることを確認。

■ CDA出力 サンプルプログラム データフロー



■ CDA出力 サンプルプログラム 画面イメージ

検索条件指定

検索結果表示

CDA出力実行

レポートID	改訂番号	検査日時	最終更新日時	患者ID	Accession No	ステータス	モダリティ
900000000000108644	0	2005/03/18 13:00:00	2005/03/18 13:06:29	0002591234	65637818	確定	MRI
900000000000121210	0	2005/09/26 00:00:00	2005/09/26 18:52:57	0001171234	66386670	確定	CT検査
000000000000273008	0	2009/07/02 09:29:25	2009/07/02 11:00:28	0002971234	2009062476602220	確定	RX





5) 標準化活動内容

- データ交換のための標準データフォーマットに関するガイドラインの作成
→ 公開済み（2018/04 改訂）
- CDAファイルが、ガイドラインに沿っているかを確認するツールの提供
→ 公開済み
- 各社システムから、ガイドラインに沿ったCDAファイルを、出力・取込するサンプルプログラム（ツール）の公開
→ 公開済み

6) CDA出力・取込 ツール

The screenshot shows the JIRA website interface. At the top, there is a search bar and a navigation menu with items like Home, 関係団体リンク, サイトマップ, お問い合わせ, and English. Below the navigation is a main menu with categories: JIRAについて, 部会・委員会等, 刊行物, 展示会, セミナー, and トピックス. The breadcrumb trail indicates the current location: Home > 刊行物 > 指針・標準・基準等 > 診断レポート. The main content area is titled '刊行物：指針・標準・基準等' and features a horizontal menu with buttons for 工業会規格(JESRA), モニタ, セキュリティ, 診断レポート (highlighted), and 動物. Below this, the page title is '診断レポート'. A blue banner contains the heading '■ 画像診断レポート交換ガイドラインと出力&取り込みツールの公開'. The main text describes the release of a guideline and tools for exchanging and importing image diagnosis reports based on HL7 Clinical Document Architecture Release 2. It mentions that the tools are designed to be easy to use and compatible with various database engines. A URL is provided: http://www.jira-net.or.jp/publishing/diagnosis_report.html. A sidebar on the left contains a list of links: ■ 画像診断レポート交換ガイドライン, ■ 01_CDA出力・取込共通資料, ■ 02_CDA出力ツール, and ■ 03_CDA取込ツール. A blue text box below the sidebar reads '「JIRAホーム」→「刊行物」→「診断レポート」'.

■ 公開ドキュメント／ツール

- 画像診断レポート交換ガイドライン 
- 01_CDA出力・取込共通資料 
- 02_CDA出力ツール 
- 03_CDA取込ツール 

- ・ 画像診断レポート交換ガイドライン
画像診断レポート交換ガイドラインの適用範囲、概要、画像診断レポートファイル仕様 等
→ 「diagnosis_report_01.pdf」

7) ガイドラインの普及状況

システムの入替え時のデータ移行を標準化し、コストダウンを目的としているが、実際には使用されていないのが現状。



システム入替え時、過去に実績のある仕様があれば、改めて新しい仕様を使う必要はないのではないか。



では、どのようにして普及させていくのが有効か？



遠隔読影依頼、地域連携、紹介患者用、患者さんへのレポート提供 など、**患者・検査単位**でのデータやり取りへの利用が有効的なのではないか。

※上記に関して、委員会内で検討を継続しました。

→ **データ交換ガイドライン 利用範囲の検討へ**

データ交換ガイドライン 利用範囲の検討

● データ交換ガイドライン 利用範囲の検討

■ 遠隔読影依頼

・医療IT専門WG

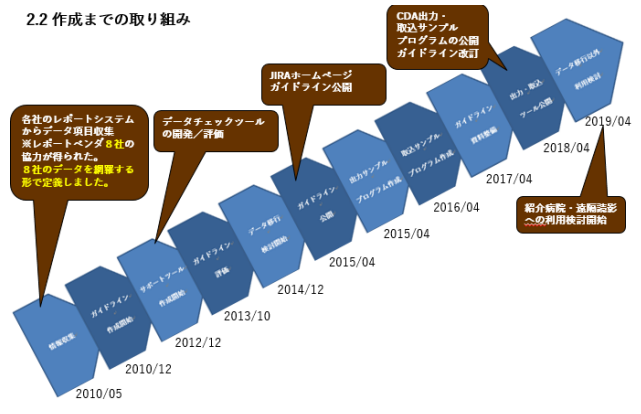
ATS（遠隔画像診断サービス連合会）とJIRAの協働を進める方向。

→ 遠隔読影依頼のデータのやり取りに、

「[画像診断レポート交換手順ガイドライン](#)」の活用を検討。

※2019/06/15「[第14回 ATSセミナー](#)」にて、画像診断レポート交換手順ガイドライン作成までの経緯、取り組み、遠隔読影での利用想定に関して報告実施。

2.2 作成までの取り組み



画像と同様に、読影レポートデータを異なるベンダ間でやり取りを行うケースが今後増えてくる。
「レポートデータ交換の標準化」

の報告内容

委員会について (組織)

交換手順ガイドラインについて

内容の概要説明

2.1 作成の経緯 (背景~目標)

- ・ マスターデータ・定型文ブックマークの受け渡し
- ・ 汎用ファイルの扱いなど

取り組み

レポート交換手順ガイドライン

、入出力サンプルプログラム

2.5 公開ドキュメント

2.6 今後の課題

CDAファイルチェックツール
サンプルプログラム
サンプルプログラム
公開ドキュメントの入手方法
<http://www.jira-net.or.jp/>
(JIRA ホームページ)

3. データ移行以外での利用

3.1 紹介病院

3.2 遠隔読影

4. その他

3.2 遠隔読影

画像診断レポート交換手順ガイドラインを遠隔読影への活用を検討してみました。

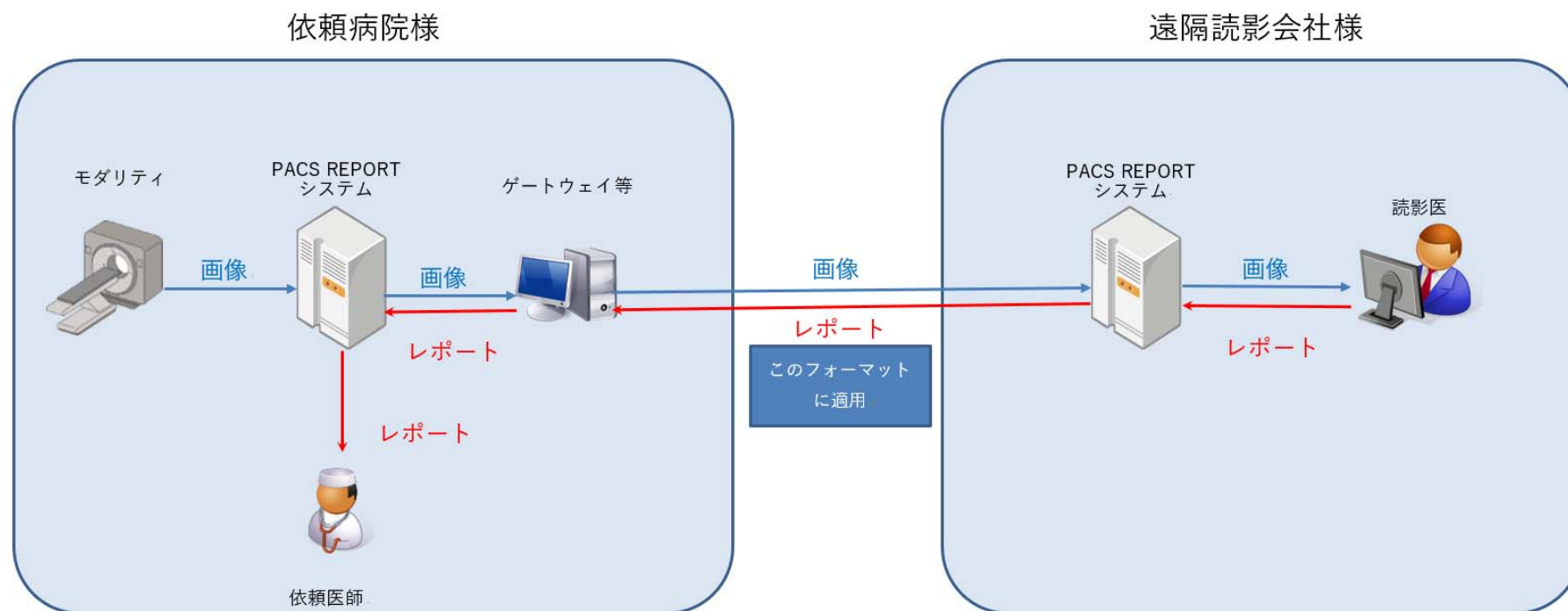
遠隔読影という視点で、以下のような業務フロー活用アイデアが議論された。

- ・ 遠隔読影依頼時に患者情報、検査目的等を伝達するフォーマットとして画像診断レポート交換手順ガイドラインのCDAファイルを用いてはどうか。
- ・ 院内読影と違い読影時に過去のレポートを容易に参照しづらいが、過去レポートの要求とその応答として画像診断レポート交換手順ガイドラインのCDAファイルを返すフローが確立できると有用ではないか。
(読影依頼時に予め過去レポート過去画像を添付するフローも考えられる)

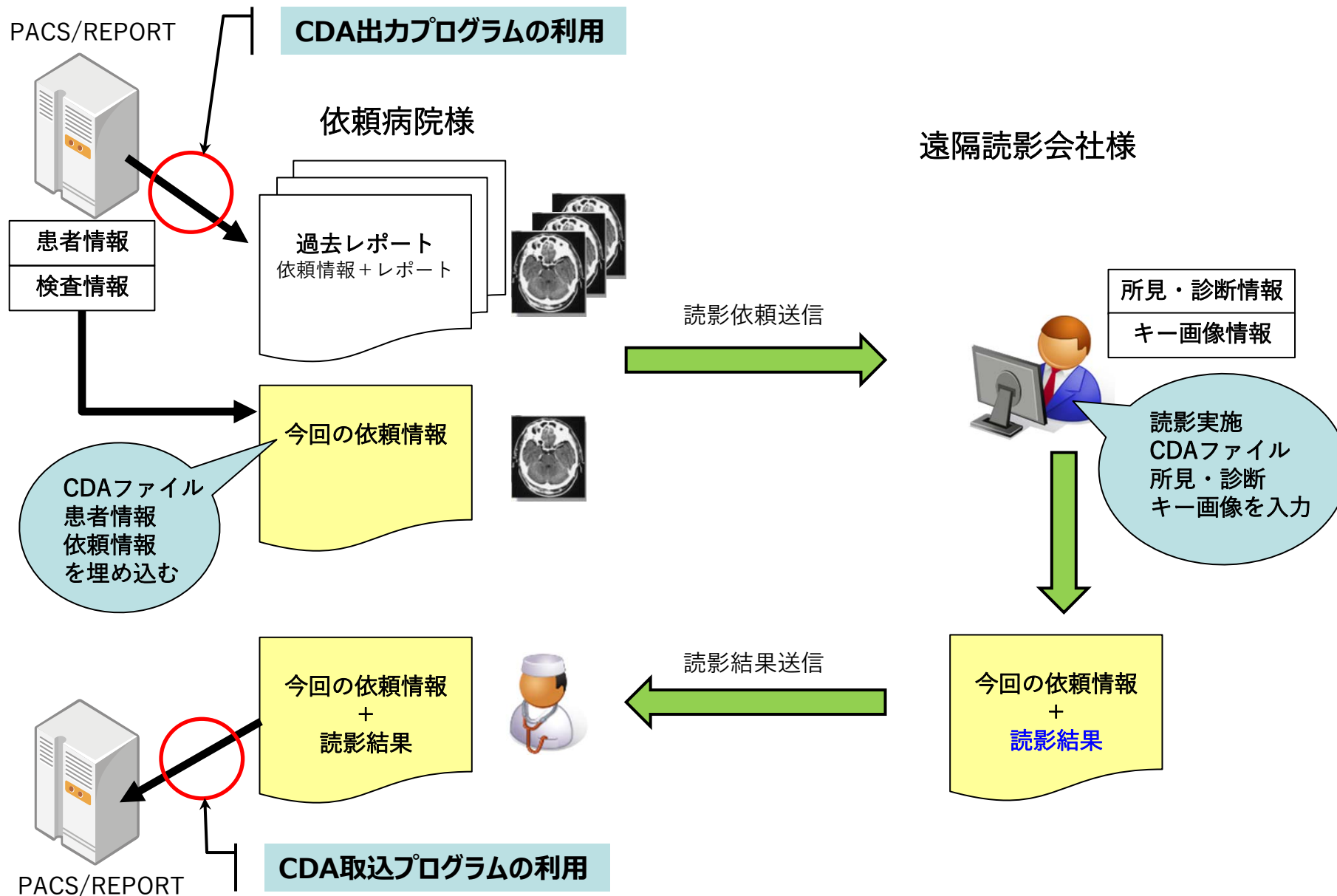
遠隔読影システムへの適用について、メリット／デメリット等をまとめてみました。

・ 遠隔読影システムへの適用について

- 1) データはレポート単位でXMLファイルへ格納されている。
遠隔読影システムのレポートデータ交換にも適用できる可能性が高い。
- 2) 現時点では、遠隔読影システムへの適用について詳細な検討はできていない。
実際に採用する場合はデータ項目の再検討が必要。



当委員会 今年度の活動結果について（データ交換ガイドライン 利用範囲の検討）



・遠隔読影システムで採用することでメリットとなると思われる項目

- 1) 遠隔読影システムにおいてレポートの交換規約が決まることで、システム接続費用が下がる可能性が高い。
- 2) 依頼内容の交換についても同様にコストダウンが見込める。

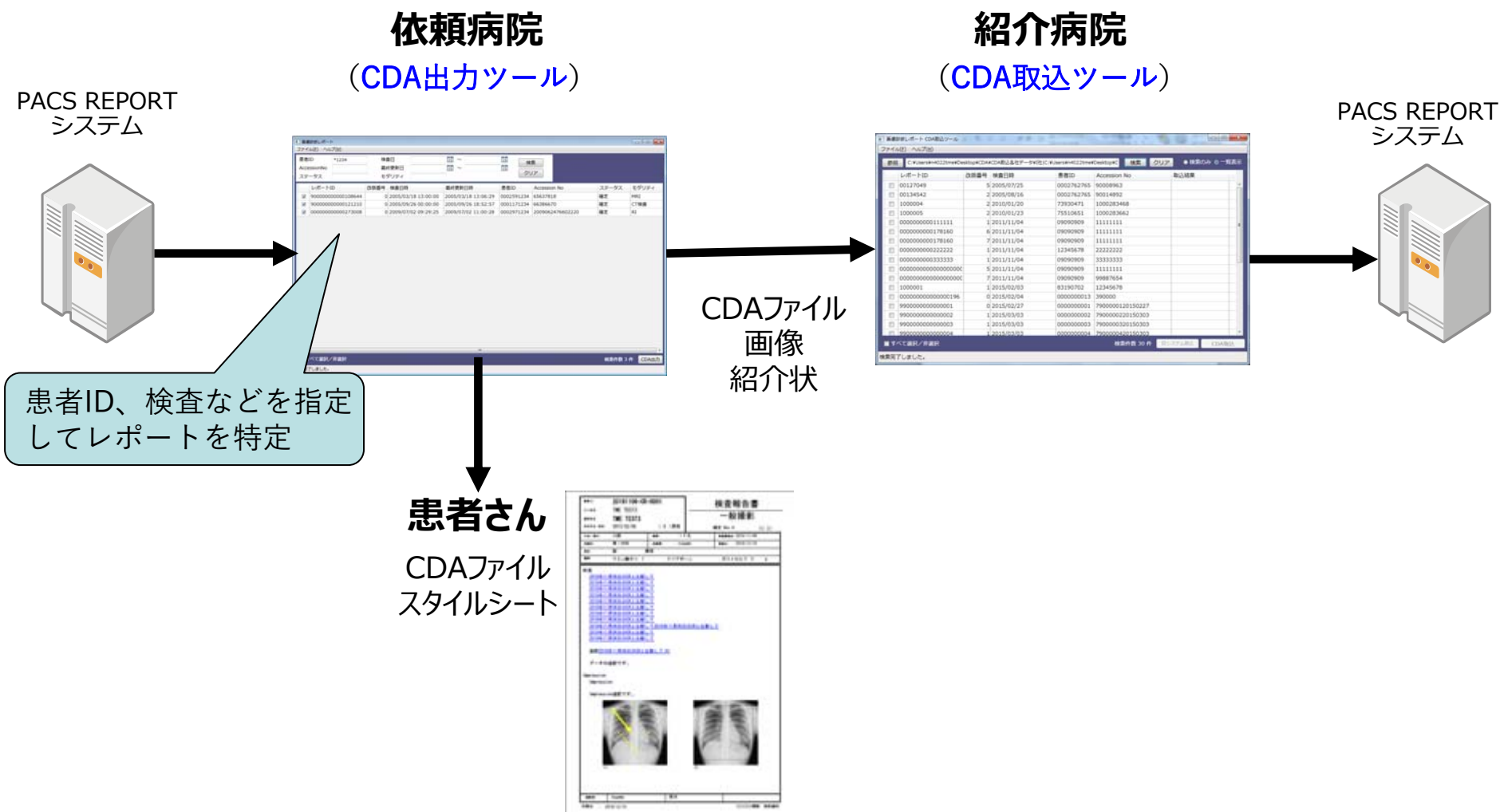
・将来的にメリットになると思われる項目

- 1) 依頼病院側で複数の遠隔読影会社様を採用した場合、同じI/Fとなりコストダウンが可能になると思われる。
- 2) 依頼病院側として、遠隔読影会社様を変更した場合のコストダウンが可能と思われる。
- 3) 遠隔読影会社様間でのレポートデータ交換が可能となります。

・遠隔読影システムでのデメリット／注意点

- 1) 現時点では、遠隔読影における使用に関して詳細な検討はできていません。
どのような問題があるかは再検討が必要。
※不足している依頼情報などがあると思われます。
- 2) 画像診断レポート交換手順ガイドラインでは、交換フォーマットについてのみ定義しています。
- 3) ワークフローや、通信方法については定義されていません。

■ 紹介患者用・患者さんへのレポート提供 など



入出力サンプルプログラム 機能追加

データ交換の標準化に関して、利用範囲も拡大して検討しているが、なかなか普及していないのが現状

委員会内で再度検討を実施してみました。

現在公開しているサンプルプログラムではDB/OSの制限や、独自にViewの作成などが発生するため、面倒なのではないか。

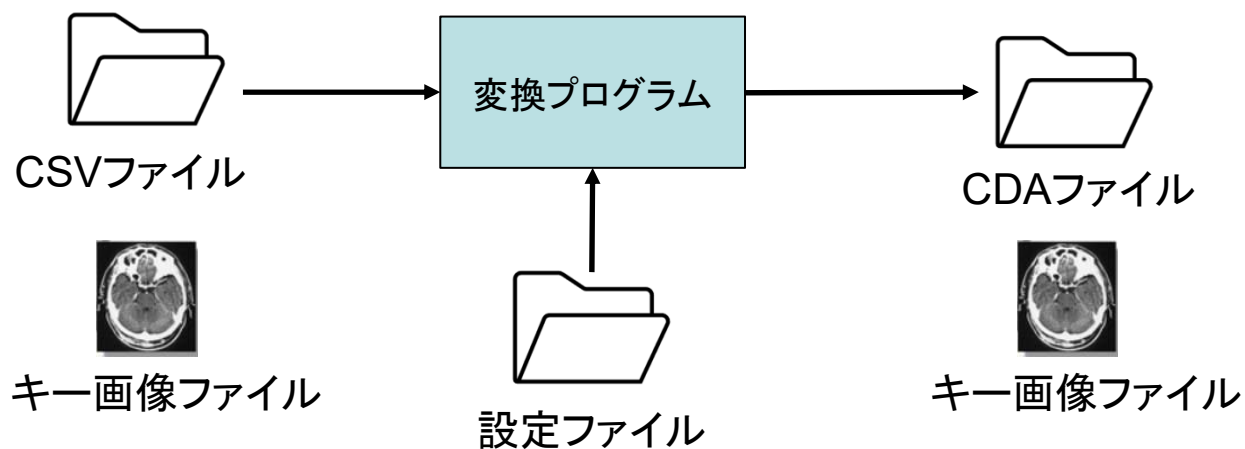
実際のデータ移行時、どのような方法でデータの受け渡しをしているか。

DBからCSVファイルへ保存し、受け渡しを実施しているケースが多い。

CSVファイルからCDAファイルを作成するサンプルプログラムなら気軽に使ってもらえるのではないか。

当委員会 今年度の活動結果について（入出力サンプルプログラム 機能追加）

CSVファイルから、CDAファイルを作成するサンプルプログラムを作ってみました。
現在、テスト中です。



当委員会 今年度の活動結果について（入出力サンプルプログラム 機能追加）

・CSVファイルのフォーマット定義

No	自社項目名	CDAデータ定義	空データ有無
1	記入状況	所見ステータス	
2	患者ID	患者ID	
3	患者氏名	患者氏名_漢字	
4	性別	性別	
5	年齢	検査時年齢	
6	入外区分	入院/外来	
7	病棟	病棟名	空あり
8	検査種別	検査種別	
9	検査項目	検査項目名称	
10	検査日時	検査実施日時	
11	依頼科	依頼科名	
12	依頼医師	依頼医名	
13	確定日時	文書承認日時	
14	一次読影者	読影医_漢字	
15	確定医	確定医_漢字	
16	承認者	承認医_漢字	
17	版数	版本号	
18	紹介元	紹介病院	
19	実施技師	検査実施技師名	
20	読影区分	オーダー優先度	
21	所見	所見	
22	診断	診断	
23	オーダー番号	診断レポート識別子	

①自社のCSVのデータを項目順に並べます。

②該当する、CDAデータ定義書の「データ定義名」を抽出します。

画像診断レポート交換手順ガイドライン

No	データ定義名	多重度	説明
9.3.2.2	患者ID	1..*	患者ID
9.3.5.3.2	患者氏名_漢字	0..1	患者氏名
9.3.5.3.2	患者氏名_カナ	0..1	
9.3.5.3.2	患者氏名_英字	0..1	
9.3.5.4.1	性別コード	1..1	F: 女性、M: 男性、UN: 不明
9.3.5.4.3	性別	0..1	性別表示名称 ※CSV値を以下ルールで自動変換し性別コードをセットします。つまり性別コードと性別のどちらかが必須です。 女性 女 → F 男性 男 → M 上記以外 → UN

当委員会 今年度の活動結果について（入出力サンプルプログラム 機能追加）

・設定ファイル作成

No	自社項目名	CDAデータ定義	空データ有無
1	記入状況	所見ステータス	
2	患者ID	患者ID	
3	患者氏名	患者氏名_漢字	
4	性別	性別	
5	年齢	検査時年齢	
6	入外区分	入院／外来	
7	病棟	病棟名	空あり
8	検査種別	検査種別	
9	検査項目	検査項目名称	
10	検査日時	検査実施日時	
11	依頼科	依頼科名	
12	依頼医師	依頼医名	
13	確定日時	文書承認日時	
14	一次読影者	読影医_漢字	空あり
15	確定医	確定医_漢字	
16	承認者	承認医_漢字	空あり
17	版数	版番号	
18	紹介元	紹介病院	空あり
19	実施技師	検査実施技師名	空あり
20	読影区分	オーダー優先度	空あり
21	所見	所見	空あり
22	診断	診断	空あり
23	オーダー番号	診断レポート識別子	

抽出した「CDAデータ定義」の項目名
を設定ファイルへ書き込みます。

当委員会 今年度の活動結果について (入出力サンプルプログラム 機能追加)

・設定ファイル作成

No	自社項目名	CDAデータ定義	空データ有無
1	記入状況	所見ステータス	
2	患者ID	患者ID	
3	患者氏名	患者氏名_漢字	
4	性別	性別	
5	年齢	検査時年齢	
6	入外区分	入院/外来	
7	病棟	病棟名	空あり
8	検査種別	検査種別	
9	検査項目	検査項目名称	
10	検査日時	検査実施日時	
11	依頼科	依頼科名	
12	依頼医師	依頼医名	
13	確定日時	文書承認日時	
14	一次読影者	読影医_漢字	空あり
15	確定医	確定医_漢字	
16	承認者	承認医_漢字	空あり
17	版数	版本号	
18	紹介元	紹介病院	空あり
19	実施技師	検査実施技師名	空あり
20	読影区分	オーダー優先度	空あり
21	所見	所見	空あり
22	診断	診断	空あり
23	オーダー番号	診断レポート識別子	

```

<add key="CSVColumnNum" value="23" />
<add key="CSVColumn1" value="所見ステータス" />
<add key="CSVColumn2" value="患者ID" />
<add key="CSVColumn3" value="患者氏名_漢字" />
<add key="CSVColumn4" value="性別" />
<add key="CSVColumn5" value="検査時年齢" />
<add key="CSVColumn6" value="入院/外来" />
<add key="CSVColumn7" value="病棟名" />
<add key="CSVColumn8" value="検査種別" />
<add key="CSVColumn9" value="検査項目名称" />
<add key="CSVColumn10" value="検査実施日時" />
<add key="CSVColumn11" value="依頼科名" />
<add key="CSVColumn12" value="依頼医名" />
<add key="CSVColumn13" value="文書承認日時" />
<add key="CSVColumn14" value="読影医_漢字" />
<add key="CSVColumn15" value="確定医_漢字" />
<add key="CSVColumn16" value="承認医_漢字" />
<add key="CSVColumn17" value="版本号" />
<add key="CSVColumn18" value="紹介病院" />
<add key="CSVColumn19" value="検査実施技師名" />
<add key="CSVColumn20" value="オーダー優先度" />
<add key="CSVColumn21" value="所見" />
<add key="CSVColumn22" value="診断" />
<add key="CSVColumn23" value="診断レポート識別子" />
    
```

・設定ファイル作成
コード変換
(性別)

<!--

性別→性別コード変換設定

GenderSettingNum : 設定数(N)

GenderSetting[1-N] : 変換設定 性別:性別コード

※未設定の性別は UN に変換する

-->

<add key="GenderSettingNum" value="4" />

<add key="GenderSetting1" value="女性:F" />

<add key="GenderSetting2" value="女:F" />

<add key="GenderSetting3" value="男性:M" />

<add key="GenderSetting4" value="男:M" />

変換数の設定
「女性・女」の場合
→ F に変換
「男性・男」の場合
→ M に変換
※文字列は変更可能

・設定ファイル作成
コード変換
(入院外来)

<!--

入院外来設定

InOutSettingNum : 設定数(N)

InOutSetting[1-N] : 変換設定 入外区分:入外区分コード

※未設定の入外区分は UNKNOWN となる

-->

<add key="InOutSettingNum" value="3" />

<add key="InOutSetting1" value="外来:OUTPNT"/>

<add key="InOutSetting2" value="入院:INPNT"/>

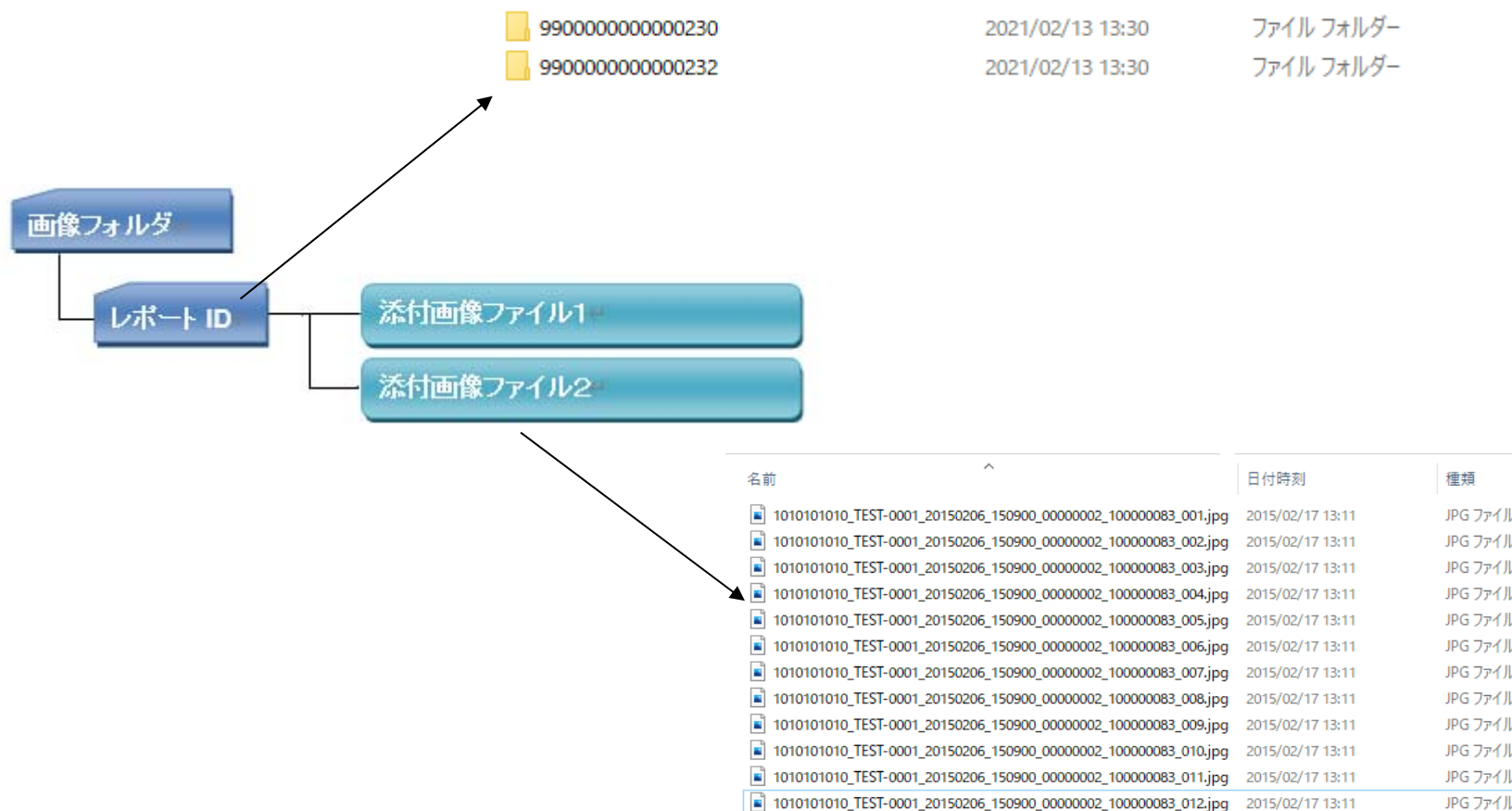
<add key="InOutSetting3" value="入院外来:OUTINPNT"/>

変換数の設定
「外来」の場合
→ OUTPNT に変換
「入院」の場合
→ INPNT に変換
「入院外来」の場合
→ OUTINPNT に変換

当委員会 今年度の活動結果について（入出力サンプルプログラム 機能追加）

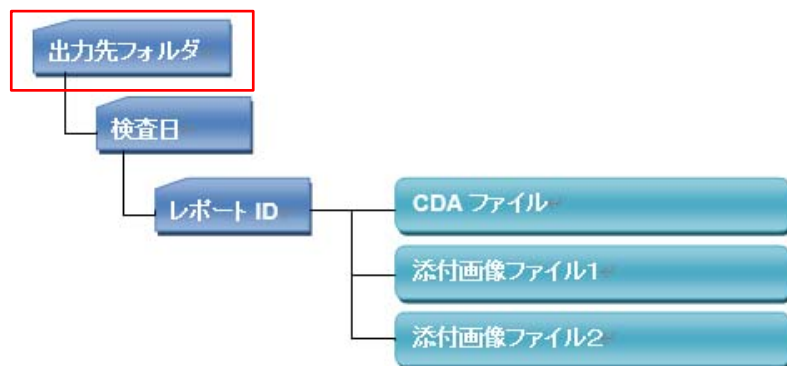
・キー画像ファイルの準備

添付されるキー画像は以下のフォルダ構成になります。



当委員会 今年度の活動結果について（入出力サンプルプログラム 機能追加）

- CDAファイルの出力フォルダ準備
出力されるキー画像は以下のフォルダ構成になります。



フォルダ・ファイル名	説明
出力先フォルダ	コマンドライン第三引数 出力先フォルダ
検査日	YYYYMMDD
レポート ID	レポート ID
CDA ファイル	(病院コード 10ケタ)_ (患者 ID)_ (検査日)_ (Accession No)_ (レポート ID).xml
添付画像ファイル	(病院コード 10ケタ)_ (患者 ID)_ (検査日)_ (Accession No)_ (レポート ID)_ nnn.jpg (nnn : 001~999)

名前	日付時刻
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230.xml	2021/02/12 11:24
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_001.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_002.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_003.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_004.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_005.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_006.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_007.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_008.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_009.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_010.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_011.jpg	2015/02/17 13:11
1010101010_000000003_00010101_000000002_9900000000000230_012.jpg	2015/02/17 13:11

・サンプルプログラムの実行

コマンドラインから実行します。

第一引数 CSVファイル名(相対パス)

第二引数 画像フォルダ(相対パス)

第三引数 出力先フォルダ(相対パス)

>CDAConvert.exe CSVファイル名 画像フォルダのパス 出力先フォルダのパス

```
C:\> 選択管理者: コマンド
2021/02/08 16:16 30,208 CDAConvert.exe
2021/02/12 11:11 6,503 CDAConvert.exe.config
2021/02/08 10:30 6,144 CDALogger.dll
2021/02/08 16:16 65,024 CDAResultMapping.dll
2021/02/08 10:30 172,544 CDASchema.dll
2020/11/18 11:55 301,056 log4net.dll
2021/02/12 09:38 <DIR> LogFile
2021/02/08 10:31 5,632 ReportAppendixAccess.c
2021/02/08 10:30 40,448 ReportSystemDomain.dll
2021/02/12 09:15 0 [動作ログファイルパス]
2021/02/12 11:10 2,083 エクスポート用_ファイ
2021/02/12 11:17 <DIR> キー画像
2021/02/12 10:59 <DIR> 入力ファイル
2021/02/12 09:57 <DIR> 出力ファイル
10 個のファイル 629,642 バイト
6 個のディレクトリ 66,792,480,768 バイトの空き領域

C:\¥00_CDA変換ツール_20210208¥インストーラ¥CDAConvert>CDAConvert.exe エクスポート用_ファイル01.csv ¥キー画像 ¥出力ファイル
画像フォルダが存在しません

C:\¥00_CDA変換ツール_20210208¥インストーラ¥CDAConvert>CDAConvert.exe エクスポート用_ファイル01.csv キー画像 出力ファイル
CDA変換ツール 開始
1 : 9900000000000229 : 1010101010_0000000001_00010101_0000000001_99000000000000229.xml
2 : 9900000000000230 : 1010101010_0000000003_00010101_0000000002_99000000000000230.xml
3 : 9900000000000231 : 1010101010_0000000005_00010101_0000000003_99000000000000231.xml
4 : 9900000000000232 : 1010101010_0000000051_00010101_0000000004_99000000000000232.xml
CDA変換ツール 終了

C:\¥00_CDA変換ツール_20210208¥インストーラ¥CDAConvert>
```

2021/02/Mからテスト実施中
(まだ、開始したばかりです。)

CSVファイルがあれば、設定ファイルの変更
のみでOK
操作が簡単になりました。

その他

- その他

以下の項目に関しては、継続調査実施中

- 1) 放射線科以外のレポートに関する標準化の動向
- 2) 他団体の動き
- 3) 海外の標準化動向

● 来年度以降の活動計画について

- (1) CSVファイルから、CDAファイルを作成するサンプルプログラム
動作確認を終了させて、サンプルプログラムの公開
→ 簡単なツールがあるので、[画像診断レポート交換手順ガイドライン](#)を気軽に
使用できる環境を整える。
- (2) さらなる[利用範囲の拡大](#)を検討する。
患者へのデータ提供、患者紹介、地域連携、遠隔読影等への応用。
- (3) 放射線科以外の[レポートに関する標準化動向](#)、他団体の動き、海外標準化
動向を調査する。

- 画像診断レポート交換手順ガイドライン

【課題の検討】

1) レポートシステム固有の情報受け渡し方法

- ・定型文
- ・ブックマーク
- ・シエーマ
- ・汎用文書（PDF、Word、Excel） など

2) CDA出力／取込サンプルプログラムの改良

- ・サンプルプログラムの問題点／改良点などの意見収集
- ・サンプルプログラムのバージョンアップ（新OS対応 など）

3) 画像診断レポート交換手順ガイドラインの改訂

- ・必要に応じて改訂の実施

御清聴 ありがとうございます。

画像診断レポート「データ交換の標準化」に
ご協力お願いします！